

# 地域活性化という「遊び」

28

京都市  
福知山市 「みわ・ダッシュ村」から

山本晋也

「このメンバーでこれだけの人数いたらとりあえず食べ物には困らないよね」

**ゴ**ールデンウィークが終わったある日の夜

焚き火を囲んで自分たちで作った焼き鳥を頬張りながら楽しそうに話したくさんの子供たち。子供たちと言っても今回集まったのは主に中高校生くらいのティーンエイジャー。



みんな数百キロ自転車で楽しく??走って集まってきました。

地方で開催される小さな農業や音楽イベントなどに参加した際それぞれ知り合いになったそうです。明るいうちに自分たちで山から竹を切り出し

焼き鳥用の串や箸を作り鶏を解体してうちの子どもたちが作っている畑から野菜を収穫。ご飯はもちろん薪で。

「うちは民宿と違うから自分たちのことは自分で全部やってね」今回の集まりに際して僕が最初に放った言葉です。ただ今回集まった子どもたちはみんなそれぞれ学校へ行ったり行かなかったりと自由な学び方を自分たちで選択してきた子どもたちなので

## 数百キロを自転車でやってきた子供たちを野放しにした一週間

そんなことは特別言わなくても良かったのですが年齢的にも自立を考えねばならない時でもありちよつとその点を強調してみました。

**宿**泊は農場内にテント、シャワーやガス電気水道などの光熱費は労働との交換

それ以外の起床や消灯時間など細かいルールの取り決めは無し。そうやってティーンエイジャーを一週間ほど野放しにするのはなかなか興味深いものです。野放しと言っても滋賀や三重、遠くは香川県から自転車やバイクでホイホイやってくような子どもたちなので

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動。そのかわらオガニックレストランを運営するも食材を種から作ってみたいとなり、京都市内で畑を始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダッシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。土と向き合ううち田畑と山や川、個人とコミュニティーの関係やその重要性に気がつき、田舎も都会もすべて含めた「大きな意味での自給」を強く意識するようになる。この考え方は、美術家時代にドイツの現代美術家ヨゼフボイスのすべての人々が参加して創り上げる社会彫刻という概念に影響を受けた。現在みわ・ダッシュ村副村長。

そういう状況には慣れっこというよりそういう状況に置かれた方がより力を発揮するようです。調味料や米などは割り勘

僻地ゆえの「最寄りのスーパーまで15キロ」は楽しいサイクリング。途中自転車が故障した子がいても修理が得意な子がネットで部品を注文し滞在中に修理。もちろん直してもらった子ども

一緒にやるので次回からは自分でできるようになりました。晴れの日は何も無い広い野原で思いつき遊び雨の日は室内で絵を描いたり革細工などのクラフトに熱中。それらも得意な子が道具や情報を提供し完成まで導きます。夜はトランプやカードゲームで思いつき夜更かし。

帰り際にみんなでジャンプ。  
若いて素晴らしい!



夜更かしの後  
昨夜の残り物を上手く  
使ってサンドイッチ。  
残り物をいかに美味しく  
食べるかという努力が  
凄い!



焼き鳥は肉にするところから串まで手作り。  
これも楽しそうにこなしてしまいます。



雨の日はクラフトに熱中。  
始めるとほとんど休憩しないという素晴らしい集中力。

その情熱やパワーは本  
当に素晴らしいですね。  
彼らなら楽しく夢を实  
現する方法や  
楽しく問題を解決する  
方法も  
いとも簡単に見つけて  
しまいそうな気がしま  
す。  
地域活性化のキーは  
やはり若者ですね。  
僕は偉そうなこと言う  
より  
そろそろ彼らのサポー  
トに回ったほうが良い  
ように思いました。

夜更かしすると朝が遅くなるので

次の日のために

ご飯を余分に炊いておくとか

明日は革細工の時間を

たくさん取りたいから

カレーをたくさん作っておいて

調理時間を節約するなど

それぞれ自分たちのやりたいことが

できるように

工夫しながら過ごしていました。

まーみんな生き生きと

よく遊びよく働くこと。

彼らにここまで見せられると

原稿の最初に登場した

「このメンバーでこれだけの人数い  
たらとりあえず食べ物には困らない

よね」

と云うセリフに物凄い説得力を感じ

るのは僕だけではないはずだ。

集まったみんなも

本当に楽しかったようで

帰り際には「次回いつにしようか？」

と云う話も出ていました。

最

後の夜は僕も参加して

「遠くから集まるとなるとそれ

なりにお金もかかるだろうから、そ

のうちイベントみたいにして交通費

くらい稼げるようにしたらどう？」

「毎回 TENT 張るのも雨が降ったり

すると大変だから、自分たちで小屋

くらい建てちゃったら？」

などと火に油を注ぐようなことを言

ってみると案の定

「それいいねー!」

と大いに盛り上がりつついましたが

そこから先を

どういふふうに進めるかは

彼らに任せてみようと思います。

食べ物には困らないけど

今の世の中で生きていくためには

食べ物他どのくらいの現金が必

要で、それをどのように生み出して

いくのか?

一週間一緒に過ごして

年齢的にそういうことにも興味を持

ってもらいたいと思いました。

しかし若いというのは向こう見ずで

大人から見ればただ若いだけです

その情熱やパワーは本

当に素晴らしいですね。

彼らなら楽しく夢を实

現する方法や

楽しく問題を解決する

方法を

いとも簡単に見つけて

しまいそうな気がしま

す。

地域活性化のキーは

やはり若者ですね。

僕は偉そうなこと言う

より

そろそろ彼らのサポー

トに回ったほうが良い

ように思いました。